ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
EU41C302	教育法規の解釈・運用に関する実践研究(Practical Research on Interpretation and Application of Educational Law)					高度専門科目									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1	教育学研究科	前期		氏名 熊丸真太郎、渡邊英樹 E-mail kumamaru@oita-u.ac.jp 内線 7550									
授業の概要	第1回ではスクールリーダーが教育法規を学ぶ意味を考える。第2～4回では教育法規の読み方、教育法規をめぐる改革動向について学ぶとともに、学校管理職が必ず直面する教職員の要求の場面に焦点を当て、教育法規の面から考えた対応方法を考える。第5～14回は教員の作成した様々なテーマの事例をもとに、具体的な対応策を立案し、検討する。第15回は14回の講義を通じた学びの振り返りを行う。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	教育法規の解釈・運用に関する実践的知識を説明できる														
目標2	勤務校等を題材として教育法規に関する現状の課題を分析できる														
目標3	勤務校等の課題解決を図る具体的な対応策を提案できる														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクション：なぜ教育法規を学ぶのか？														
2	スクールリーダーと法(1) 教育法規の読み方と法解釈の方法														
3	スクールリーダーと法(2) 教育法規をめぐる改革動向とポイント														
4	スクールリーダーと法(3) 教職員の要求と対応														
5	事例読解(1) 教育課程														
6	事例読解(2) 著作権、肖像権														
7	事例読解(3) 教員の仕事と健康(校務災害)														
8	事例読解(4) 教員の仕事と健康(休職・休暇)														
9	事例読解(5) 教員の仕事と健康(働き方改革)														
10	事例読解(6) 教員の懲戒・分限														
11	事例読解(7) 学校の内規・マニュアル整備														
12	事例読解(8) 校則の整備														
13	事例読解(9) 学校事故														
14	事例読解(10) 体罰と懲戒・いじめ														
15	学習成果の発表と総括														
ラーニング	A:知識の定着・確認	時間外学修(宿題), 調べ学修(文献, インターネット), プレゼンテーション, ディスカッション(ガイド付き・フリー), 事例研究					工夫	その他の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学修の内容と時間の目安	準備	配付資料等の根拠となる法令, 判例等を文献やインターネットを用いて検討し考える(10h)													
	学修	立案した方策等のプレゼンの準備をする(5h)													
	事後学修	授業で学習したことを整理し, 獲得した知識等の定着を図るとともに獲得した知識等を用い, 課題解決の方策を考える(15h)													
教科書	大分県教育庁教育改革・企画課『大分県教育関係者必携』第一法規, 2022年、ISBNなし														
参考書	学校管理運営法令研究会編『第六次全訂 新学校管理読本』第一法規, 2018年、ISBN978447406309-9 学校教務研究会編『詳解教務必携 第8次改訂版』ぎょうせい, 2009年、ISBN9784324087176														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加など)	70%													
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%													
注意事項	本授業においては、擬似的に教員集団を組織するという側面もあるので、院生同士の双方向のコミュニケーションに努めること。とくに、各自のバックグラウンドの違いや経験値の差を積極的に利用し、自分自身のバイアスや固定観念を省察することに努めてほしい。														
備考															
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	渡邊英樹（小・中学校、教育委員会事務局）
実務経験を いかした教 育内容	小・中学校長及び教育事務所長としての実務経験をもとに、学校現場や教育行政現場での教育法規の解釈や活用について指導を行う